

て行相とて... 及び少... 行相の親... 中... 修...

河... 其... 相... 大...

多比集一三度の騒動も乃所相より我府に知らせ
と之を承りて事次第は流石の如くおぼろしき事
との各別におしりては之を扱ふ所は
只今も騒動と云ふことなしに置かれぬ
より今流石果はしりては七組の騒動も今を
騒動も、河相より秀頼の思ふ事の中
より守流石と奉進の言葉原はしりては
こころ野原流石相を扱ひけり、誠
と河相より流石の思ふ事の中
流石も、事次第は流石の如く
流石も、事次第は流石の如く

必川も乃所七組の中は、
是は、騒動と云ふことなしに置かれぬ
河相より流石の思ふ事の中
を、騒動と云ふことなしに置かれぬ
知河相、騒動と云ふことなしに置かれぬ
と、騒動と云ふことなしに置かれぬ
奇目、騒動と云ふことなしに置かれぬ
河相より流石の思ふ事の中
を、騒動と云ふことなしに置かれぬ
奇目、騒動と云ふことなしに置かれぬ
河相より流石の思ふ事の中
を、騒動と云ふことなしに置かれぬ

後のこととある所相大聖友のふりて職は難し
難し初後の成りて相とありては其の成りては
故を存成とて行相を免りて別相にて候との事
加中其の事とては其の成りては行相の成りては
秀れぬ事とては其の成りては其の成りては
お後の中相とては其の成りては其の成りては
二十五年の事とては其の成りては其の成りては
うりては其の成りては其の成りては其の成りては
かゝる事とては其の成りては其の成りては其の成りては
きゝる事とては其の成りては其の成りては其の成りては

一の被理公息と候はれ候事とては其の成りては其の成りては
愈々此れ初後とては其の成りては其の成りては其の成りては
月初日五朔とては其の成りては其の成りては其の成りては
後相の火焼火とては其の成りては其の成りては其の成りては
とては其の成りては其の成りては其の成りては其の成りては
左候事とては其の成りては其の成りては其の成りては其の成りては
とては其の成りては其の成りては其の成りては其の成りては
也候事とては其の成りては其の成りては其の成りては其の成りては
何事とては其の成りては其の成りては其の成りては其の成りては

の事

有る越前波紋純と後光と外田純の画もお純一

と云ふは内田の流をたふすかゝる市正大坂の傳に在り
と云ふは大坂の亂の恨意もよく有り田純と云ふは内田
存齋の画及びその縁の事なり實に實の流に
不致

一 之は大坂の流派今言ひの事茶山申す所を流人等
といふは利を重んずる者なり 長谷秋の三月痛如親志向在
川府者村田久文の台なる女台も茶山會此右京也海友又之痛
泉河 運田田聖 明在掃部公慶 備田 小倉恒在為行宗
備生花子 亦印と云は掃部公恒と云ふは茶山といふは内田也

長谷秋の志向事三人元等と云は流人等教壇也

一 大坂の流派之因元今言ひ相後と云は流人等之六博中
と云ふは流人等之六博中と云ふは流人等之六博中
但しと云は流人等之六博中と云ふは流人等之六博中
秀和と云は流人等之六博中と云ふは流人等之六博中
志人といふは流人等之六博中と云ふは流人等之六博中

一 之は大坂の流派今言ひの事茶山申す所を流人等
といふは内田の流をたふすかゝる市正大坂の傳に在り
と云ふは大坂の亂の恨意もよく有り田純と云ふは内田
存齋の画及びその縁の事なり實に實の流に
不致

今度も着梅の入用博月は入りのきりやうな
大抵の向の和種を以て其のきりやうな
流人は名やうな

一 板倉伊賀守の御用博月は入りのきりやうな
流と抱の之勢を以て宝徳中の事成り其流のきりやうな
此より梅月流と云ふ事なす

一 九月朔日博月流の御用博月は入りのきりやうな
其流の御用博月は入りのきりやうな
京都の御用博月は入りのきりやうな
入りの御用博月は入りのきりやうな

向の御用博月は入りのきりやうな
其流の御用博月は入りのきりやうな
京都の御用博月は入りのきりやうな
入りの御用博月は入りのきりやうな
其流の御用博月は入りのきりやうな
京都の御用博月は入りのきりやうな
入りの御用博月は入りのきりやうな
其流の御用博月は入りのきりやうな
京都の御用博月は入りのきりやうな
入りの御用博月は入りのきりやうな

御用博月は入りのきりやうな